

・・・ 弊投稿（2023-8-12付）に京数の読み違いがあったことに気づき、報告します。

子供の頃には、大きい数字の単位は万で、10万円から始まったという宝くじの1等が百万円だったり、百万長者と呼ばれる人がいたのを覚えています。その後、日本の人口が1億人を越えた（1970頃）と聞いて、億の単位が世の中に出ているのに気づき、更に、国家予算が1兆円を超えて、最近では歳出が100兆円を超え、民間でも、1兆円を超える利益を出す企業があるなど、億から兆までは、世の中で目にする数字単位かと思っていたのですが、先週、最近では1日遅れでゆっくり読むことをしている新聞で、自分の83歳の誕生日の新聞を読んでいて、科学のページに、「超高エネルギー宇宙線検出」とあり、米国のユタ州で、日米韓の国際研究グループが2021年に上記宇宙線粒子1個を検出して、そのエネルギーが、244エクサ電子ボルト（エクサは100京）とあるのに出会いました。

今まで、新聞で読む情報の中で、京で示される計量数字に出会ったことがなかったと思って、最近では検索欄に自分の質問ことばを入れて検索しているパソコンの検索で、「最近の新聞で、京単位で示された数値の例はありますか？」と聞いたところ、AIの返事で、

1. スーパーコンピューター「京」は、世界で初めて毎秒1京回の計算速度を達成し・・・。
2. 銀河系の直径は約95京Kmとされています。
3. 朝鮮日報は中国の不動産負債が「1京ウオン」を超えていると報道しました。
4. また、2023年7月20日には韓国経済が「韓国民の純資産は2京ウオン超え」と報道しています。

これらの例からわかるように、「京」は大きな数値を表現する際に使用されます。

ただし、日常生活では、あまり使われることはありません。

という回答が出てきました。

又、他に、「最近」を外した質問に対しては、他に、「警察庁「京」単位で個人識別」という2019年3月の日経記事で、警察庁が、犯罪捜査などで実施しているDNA型の鑑定について新しい検査試薬の導入を決めたとあり、同じDNA型の出現頻度が、「4.7兆人に1人」から「565京人に1人」となり、より精密な個人識別が可能になると、出てきました。

それで、「単位は万毎に変わるから、京は1万兆」という理解でいた「京」について聞いたところ、数字の単位は、時代や国により名称が変わり、1京は、10の7乗、10の16乗、10の24乗、10の32乗の、4通りが考えられているが、日本では江戸時代に万進法に統一され、現在も同じく、10の16乗が使われていることを知りました。

そこで、私が、お盆の頃に、自分の先祖を父母だけで遡った場合に、千年前には何人位いた

ことになるかと思い、1兆人になると計算し、それを「迎え火に千年前の先祖兆」と謡い、兆になる計算根拠の説明をしたところまでは、今も正しいと思っているのですが、調子に乗って、1万年前の先祖数を、「2の400乗で1京人になりました。」とした<1京人>が、間違いであることに、今回気付いた次第です。

乗数計算と万進の操作で混乱したのかもと思いますが、いずれにせよ、「2の400乗」は今も正しいと思うのですが、千年で1人に1兆（10の12乗）人の元の先祖が出るならば、1万年では、1兆倍が10回繰り返されるわけで、（1兆の10乗=10の120乗）人の先祖がいることになるので、「10の120乗」を数量単位で何というかは、私にはわかりませんが、上記のように、（10の16乗）人である1京人ではないと理解しましたので、この場を借りて、誤りを告白させていただきます。

1より大きい数の単位名は21個あるそうで、億・兆・京・の上に9番目の「ガイ」（10の20乗）があり、20番目は「不可思議」【10の64乗】、21番目に最大の「無量大数」（10の68乗）があるという情報はインターネットに出っていますが、「ガイより上の単位なんて先ず使う機会はありません」  
とも出ているのが現状ですから、10の120乗人は、<数ではないほどに大きな数であるという無量大数よりも格段に大きな数>の人数であり、1万年前の先祖は、「数えきれない程多い」と言うほかないと思う次第です。

もっとも、仏教の華嚴経には無量大数より更に上の単位が100個以上あるという説明文にも出会い、又、それには、呪文のようにしか見えないとありますので、当面そのように、受け止めておこうかと思えます。

そして、今年は、お盆に数の過少見積りはしながらも、遠い祖先へ思いを馳せながら迎え火を焚いたな一などと思っていると、遠い先祖のだれかが訪れてくれたような気がして、来年からの毎日が、今まで縁を感じて来なかった先祖と共にあり、厳しくも温かく、見守られる日々のような気がしてきたところではあります。

以上。